

第26回岩手県わさび品評会について

本県の「わさび」生産は、長野県、静岡県に次いで、主要な生産県となっています。特に「畑わさび」は生産量・品質とも全国トップで、毎年開催される「全国わさび品評会」においても「丸掘り部門」(茎・葉、本県では「畑わさび」)で上位入賞しています。

平成27年9月12日～13日、宮古市川井において岩手県わさび生産者協議会が主催する第26回岩手県わさび品評会が開催されました。

1 審査会

審査会は、9月12日(土)に宮古市の株川井産業振興公社で行われました。審査は、「根わさび」、「畑わさび」の2部門で行なわれ、主催者から委嘱された記述者及び盛岡広域振興局林業普及指導員、宮古農業改良普及センター農業改良普及員、(一社)遠野わさび公社技術員の4名が審査しました。

出品財の1次審査(重量等の出品規格)は事務局が行い、審査員は2次審査(外観審査)として、「根わさび」では「形状」「色沢」「病害虫」、「畑わさび」では「草姿・草勢」「収量」「病害虫」のそれぞれ3項目で実施しました。



2 審査総評

わさび栽培には天候が大きく影響します。出品された「根わさび」「畑わさび」とも1

年6ヶ月前後の生育期間を経過していますが、特に「畑わさび」は昨年の猛暑に続いて今年も平均気温が高い状況が続き、冬季の雪不足による乾燥害、春4月から7月の高温少雨でナトビハムシによる食害痕が見られました。一方、「根わさび」では、降雨不足で水量が若干減少したようですが、生育には影響はなかったようです。しかし、葉柄や根茎の調整の不十分なものが見られました。

3 表彰式

「根わさび」の最優秀賞は遠野市の佐藤昭悦さん(指導林家)、「畑わさび」では岩泉町の中瀬福男さんが受賞しました。

表彰式は、宮古市川井の「道の駅 やまびこ産直館」で開催された「やまびこフェスタ2015」の会場ステージで行われ、会場の一角では、品評会出品財の展示会及び即売会も行われました。会場を訪れたお客さんには、「根わさび」の良し悪し、おろすなら新鮮な根元から、保存の仕方などをPRしていました。

4 今後の取組み

平成29年度には本県で「全国わさび品評会」「全国わさび生産者大会」が開催されます。岩手県わさび品評会も全国品評会の審査基準で運営していく必要があり、出品指導も併せて強化していく必要があります。

また、「根わさび」では市場のセリで評価されるようになり高値で取引され、「畑わさび」も全国的に需要に供給が追いつかず価格は高値で安定しています。「畑わさび」栽培では最近アカマツ林床の利用が最適と評価されています。

今後、有望な森林の活用作目として「わさび」生産を支援していきたいと考えています。